



旧烏山病院 (現烏山和紙会館)

・旧烏山病院は、大橋清吉を発起人代表とする地元の実業家数名が、当時の金額にして6万円の資金を募り、株式会社烏山病院として大正12年に開業された。

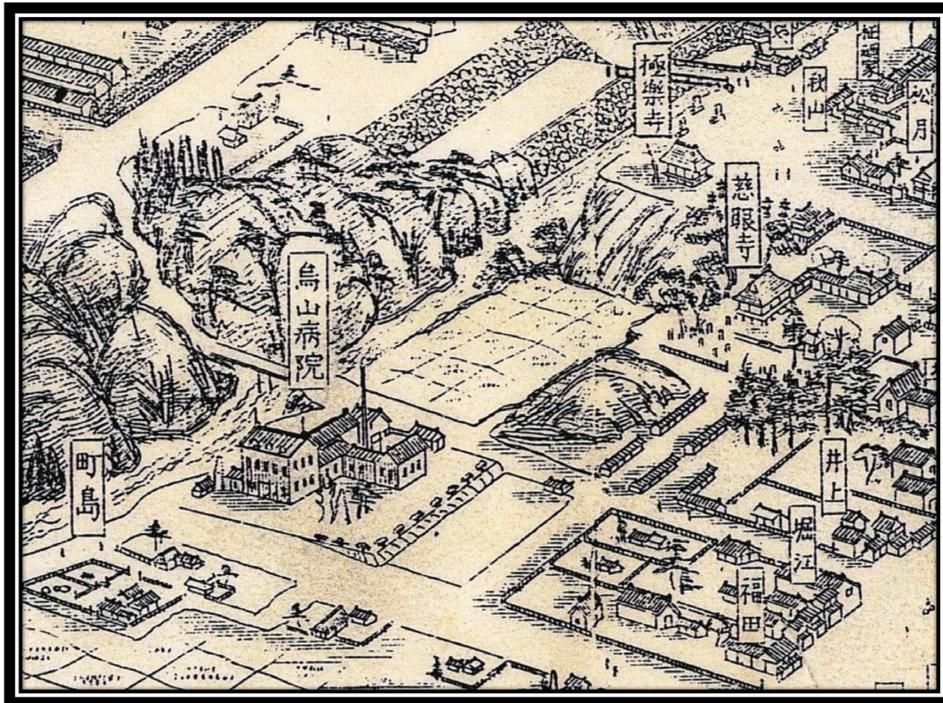
・3棟の病棟が連なった当時の概観は、明治40年代から昭和戦前期にかけて活躍した絵師、松井天山の鳥瞰図にも描かれている。

・現在は、地元の伝統工芸品・烏山和紙を展示・販売する烏山和紙会館として再生されている。なお、烏山和紙を代表する程村紙は昭和45年3月に烏山町重要無形文化財に、そして昭和52年6月に国の無形文化財にも選定されている。

・建物の構造は、木骨モルタル造二階建て、切妻屋根の擬洋風建築物である。

・特徴は、縦長の上げ下げ窓や半円形のドーマー窓など、大正後期から昭和初期に流行した新しい芸術思潮であるドイツ表現派建築の影響が見られる。また、重厚な玄関ポーチやその上部に左右対称に描かれた10個の連円が重なる白塗りの鰻絵(こてえ)、さらに換気口のディテールなど、豊かなデザイン性も感じられる。

・江戸期以降の木造家屋が多く残る町並みの中に建てられた擬洋風建築物は、新しい時代の予感を誘ったものと思われる。時代の要請に対応した近代的設備を備えた病院建築物から、地域の伝統技術を象徴する産業会館へ。旧烏山病院(烏山和紙会館)の重厚にして優美な造形は、懐かしい甘美な香気とともに、近代建築の精華が息づいている。



松井天山「栃木縣烏山真景」の一部 (大正13年)

3連の半円形ドーマー窓



鰻絵(こてえ)



換気口



上げ下げ窓

